

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 28日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|------------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 0171100209 | | |
| 法人名 | 株式会社 さくらコミュニティサービス | | |
| 事業所名 | 満快のふる郷 さくら千歳 | | |
| 所在地 | 千歳市勇舞1丁目7番15号 (電話) 0123-27-3987 | | |
| 評価機関名 | 株式会社 サンシャイン | | |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F | | |
| 訪問調査日 | 平成21年12月25日 | 評価確定日 | 平成22年1月20日 |

【情報提供票より】(21年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------------|---------|----------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 16年 1月 16日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 17 人 | 常勤 14人、 | 非常勤 3人、 常勤換算 8.3人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------|-----|-----|
| 建物構造 | 鉄筋 造り | | |
| | 2階建ての | 1~2 | 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|---------------------|
| 家賃(平均月額) | 50,000 円 | その他の経費(月額) | 水道光熱費:20,000 円 |
| 敷 金 | 有(150,000 円) | 無 | 暖房費:10,000 円(11~3月) |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,000 円 | | |

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 5 名 | 女性 13 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 6 名 |
| 要介護3 | 7 名 | 要介護4 | 2 名 |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 84.2 歳 | 最低 61 歳 | 最高 94 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------|
| 協力医療機関名 | 尾谷病院、 尾島歯科 |
|---------|------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「満快のふる郷 さくら千歳」の名称は、故郷のように安らぎのある家づくりを目指して職員間で話し合い名付けている。運営者、管理者は生活のパートナーとして専門性を高めた職員の育成に力を注いでいる。法人の運営方針に沿い利用者を主体にしたケアを常に話し合いチームケアを重要視している。地域住民との交流もあり、行事や避難訓練の協力など利用者が安心して暮らせる環境作りを地域、家族と一緒に作り上げている。利用者は近くの公園や周囲を散歩し、買い物や行事などに日常的に外出している。職員は家族の協力の中で利用者の意向に沿った暮らしを支え、笑顔で接している。

【重点項目への取組状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の外部評価での取り組みは特にない。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 自己評価は項目を分けて全職員が記入し、ユニットごとに話し合ったものを責任者がまとめて全員で作っている。自己評価で取り上げた課題は改善計画シートを使用し、優先度の高いものから取り組んでいる。職員は自己評価を前向きに捉え、日常のケアを見直している。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 運営推進会議の議題により、利用者や消防署員、近所の住民も会議に参加している。火災避難訓練の反省点を議題に載せ、住民との連携した避難誘導や体制作りなどを確認し、具体的に課題について意見交換をしている。他グループホームの職員もメンバーとして参加しており、同業者の視点から意見や情報をもらい、サービス向上に活かしている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 家族の来訪時には要望を聞く姿勢で対応し、小さな意見でも申し送りノートに記録して、すぐに対応をしている。苦情などは報告書を作り、本社にもFAXで連絡するとともに会議を経て改善に取り組んでいる。行事の中で、家族間での意見交換の場を設けることも考えている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目 | 町内会行事に参加し、ゴミ拾いを一緒にしている。また地域文化センターの催しに出かけたり、保育園での三世代の交流会に参加している。小学校の多様な行事に参加する一方、学童の訪問もある。事業所の「さくらまつり」や毎年の「開設記念行事」には子供連れなど近所の方やボランティアの参加があり、住民との広範囲な交流がある。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|--|---|---------------------|----------------------------------|
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 法人の運営理念に「六つの誓い」を定めている。その精神に沿った事業所の基本方針を据えている。何事も共有してのチームケア、利用者の生活を主体にした家族、地域との協働、成長を遂げられる職員の教育などの三本柱を実践の目標としている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は玄関、各ユニット、事務所に掲げ、パンフレットに載せて周知している。また一年間の行動指針を作り各ユニットの入口に掲げている。申し送り時に理念を唱和し、全体会議や介護計画の見直し時に理念に沿ってケアが行われているかを確認している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会行事の餅つきや収穫祭などに参加し、ゴミ拾いを一緒にしている。また地域文化センターの催しに出かけ歌や踊りを見て楽しんでいる。保育園の発表会における三世代の交流会に出かけた。小学校の多様な行事に参加する一方、学童の訪問もある。事業所の「さくらまつり」や毎年「開設記念行事」には子供連れなど近所の方やボランティアの参加があり、住民との広範囲な交流がある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は項目を分けて全職員が記入し、ユニットごとに話し合い責任者がまとめた。内容をホーム長が確認し全員で作りに上げている。自己評価で取り上げた課題を改善計画シートを使用し、優先度の高いものから取り組んでいる。職員は自己評価を前向きに捉え、日常のケアを見直している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|------|--|---|---------------------|----------------------------------|
| 5 | 8 | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>運営推進会議の議題により、利用者や消防署員、近所の住民も会議に参加している。火災避難訓練の反省点を議題に載せ、住民との連携した避難誘導や体制作りなどを確認し、具体的に課題について意見交換をしている。他グループホームの職員もメンバーとして参加しており、同業者の視点から意見や情報をもらい、サービス向上に活かしている。</p> | | |
| 6 | 9 | <p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | <p>社会福祉協議会の担当者に主にボランティアの相談をしている。事業所の大きな行事や催しにボランティアを依頼し、また同会が認知症の理解のため住民を対象にした研修会には、講師として協力するなどの協力関係を築いている。市の担当者とは書類関係や制度的なことを相談している。</p> | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>年に4回「さくらだより」広報誌を発行し、町内会にも配布している。また毎月の在所確認書を送る時に利用者担当から手紙で本人の様子を伝えている。家族の来訪時には記録を読んでもらい、暮らしの様子が分かるように配慮している。職員の異動などは来訪時に報告し、馴染みの担当職員が替わる時は手紙で知らせている。必要な時は電話やメールで随時連絡している。</p> | | |
| 8 | 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>家族の来訪時には要望を聞く姿勢で対応し、小さな意見でも申し送りノートに記録して、すぐに対応をしている。苦情などは報告書を作り、本社にもFAXで連絡するとともに会議を経て改善に取り組んでいる。行事の中で、家族間での意見交換の場を設けることも考えている。</p> | | |
| 9 | 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>ホーム長による年2回の定期面談の他、必要に応じて随時職員と話し合いの場を設け、働きやすい環境作りをして離職を抑える努力をしている。ユニット間の異動はあるが利用者も常に行き来しているので馴染みになっている。辞める職員は利用者の状態を見て伝えることもある。職員の交替時には利用者の気持ちを配慮し対応している。</p> | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|--|---------------------|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>職員採用時にはOJTプログラムの内容をその都度見直しながら行っている。事業所は年間計画を立て、学ぶテーマに沿って外部から講師を招いたり、外部の研修を受講できるように取り組んでいる。外部研修の報告は全体会議の勉強会で発表し、個人の成長に繋がっている。年間計画の費用は会社が負担し、その他の研修は情報をもとに自主参加になっている。</p> | | |
| 11 | 20 | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>市内のグループホーム協議会「絆の会」に職員も年に4～5回は参加している。同会が主催した運動会には利用者・家族、市の担当者も参加し、盛大に行われた。研修などで知り合った同業者の行事に利用者も一緒に参加するなど、相互に行き来する中で交流が深められている。</p> | | |
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>入居に至るまで何度も話し合い、自宅、病院、施設などの訪問を重ねる中で、意向や課題、情報を収集している。見学時には食事を一緒にしたり、様子を見てもらうなど安心して入居できるように配慮している。入居後は利用者の一言からも会話を引き出し、他利用者の仲介になって生活に慣れってもらうように精神的なケアを大切にしている。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>職員は作業を一緒にしながら漬物作りや編み物などを教わっている。管理者は利用者の持っている能力を引き出すケアを職員にしっかり伝え、職員は生活歴を把握し、大工の仕事、花でも種と苗から植える違いなど細やかに知識を吸い上げて、利用者が主体的に行動ができるようにして支えている。</p> | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|------|---|--|---------------------|----------------------------------|
| <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> | | | | | |
| <p>1. 一人ひとりの把握</p> | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>暮らしの継続ができるようにセンター方式で詳細な情報を収集し、会話の中でその思いを探っている。故郷の墓参りの意向がある時はプランに載せ、家族と職員が遠方まで同行している。会話での一言を受け止め、言葉やジェスチャーで反応を見て思いを把握できるように試している。</p> | | |
| <p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p> | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>新規の介護計画は、利用者が見学に来た時の様子や、家族、医療関係者からの基本情報をもとに、計画作成者が中心となり暫定的な介護計画を作成し、1ヶ月後に見直しを行っている。作成した介護計画は、家族とともに利用者も同席したところで説明を行い、署名捺印を得ている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>介護計画は基本的に3ヶ月ごとに見直しを行っているが、利用開始後1年が経過し、介護状態に変化がなければ6ヶ月ごとに見直しを行っている。転倒などによる身体変化や、計画を実行して不足が生じた場合、計画が本人の意向に沿っていないと思う時などは随時計画を見直し、追加したり新しい計画を作成して利用者の現状に即した介護計画を作成している。</p> | | |
| <p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p> | | | | | |
| 17 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> | <p>個別支援を基本として、理美容の送迎や利用者の買い物支援、故郷へのお墓参りの送迎など柔軟に対応している。病院の指導を受けて事業所で簡単なリハビリ支援を行うことで、早期退院に繋げることもある。</p> | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|--|---|---------------------|----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 提携医療機関の医師が各週ごとに往診しているが、以前からのかかりつけ医の往診を継続している利用者もいる。職員が受診支援を行う時は、本人の基本台帳を持参して医師に報告し、家族が送迎する時は本人の情報を提供して、適切な医療が受けられるように支援している。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 「重度化した場合の対応指針」を作成して、重度化と看取りに対する事業所の考え方や医療機関との連携体制について、利用開始時に家族と利用者に説明している。また、利用者の状態が変化した時に改めて医師とともに本人や家族の意向を第一に話し合い、方針を共有している。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者に「待ってて」「座ってて」という言葉は使わないようにし、同じ言葉でも口調に気を付けるなど、利用者の誇りを損ねないように配慮している。個人記録は事務所で保管している。日常的に記録する書類は一つのファイルにまとめて、利用者が特定できないように工夫している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事時間など、1日の流れはある程度決まっているが、利用者の希望やペースに合わせて過ごせるように、週間予定表に個別支援の予定を組み込み柔軟に支援している。利用者は買い物に出かけたり、仲の良い人と一緒に散歩などに出かけている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|---|--|---------------------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | <p>献立は、利用者の好みや固さを報告して配食サービス業者に依頼している。行事や誕生会の食事、朝食や日曜日の献立に利用者の好みを活かして、食事が楽しめるように配慮している。米研ぎや味噌汁作り、盛り付けや食器洗いなど利用者に応じて手伝ってもらっている。利用者と職員は、楽しく会話をしながら一緒に食事をしている。</p> | | <p>今後は、配食サービス業者と連携を深めて定期的に話し合う場を設けることで、利用者の好みが進んで以上に献立に反映され、更なる食事サービスの充実を期待したい。</p> |
| 23 | 57 | <p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p> | <p>入浴は午前中から夜の8時頃まで可能で、利用者の希望に応じて週2回以上入浴できるように支援している。希望者は毎日でも入浴できるように配慮している。入浴を嫌がる利用者は清拭や足浴で対応したり、家族の協力を得て入浴できるように工夫している。</p> | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | <p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p> | <p>新聞たたみや牛乳パック切り、日めくりをめくる、トイレのタオル交換など、利用者は役割を持って生活している。季節に応じて花見や蕁狩り、外食などに出かけている。また、好きなビデオを見たり歌をうたうことで、気晴らしができるように支援している。</p> | | |
| 25 | 61 | <p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p> | <p>夏季の天気の良い日は、毎日事業所の周りを散歩したり、近隣の公園やコンビニ、パン屋などに出かけている。散歩が好きな利用者は1日に数回出かけるなど、利用者の希望に沿うように支援している。冬季は、夏季に比べると外出頻度は少なくなるが、買い物や受診など、週に数回出かける利用者もいる。</p> | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | <p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p> | <p>玄関は夜間のみ施錠している。各ユニットの入口に鈴をつけた暖簾を下げたり、玄関の内ドアにチャイムを付けることで利用者の出入りを把握している。千歳SOSネットワークを利用したり、近隣には折に触れて利用者の見守りの協力をお願いしている。</p> | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|------|--|---|---------------------|---|
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 4月と10月の年2回、消防署の協力の下避難訓練を行っている。今年度は日中を想定して、近隣住民や民生委員が参加して利用者とともに訓練を行い、運営推進会議において反省報告も行っている。 | | 来年度は地域住民参加の下、夜間想定避難訓練の実施を期待したい。また、近隣住民を加えた緊急時の協力体制を整え、連絡網などの整備を期待したい。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 平日の献立は配食サービス業者の管理栄養士が作成して栄養管理を行っている。利用者の水分摂取量は毎日全員記録して把握している。食事摂取量は利用者の状況を把握して、摂取量が落ちてきた時にホーム長や管理者、看護師の指示で記録するようにしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関や廊下などの共有部分には昔懐かしい家具が配置され、壁にはかんじきなど昔の生活用品を飾るなど、家庭的で温もりのある共有空間になっている。居間は、大きな窓から暖かな日差しが入り、数箇所にソファやテーブルが配置され、利用者が好みの場所で落ち着いて過ごせるように工夫がなされている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室にはベッドと洗面台が備え付けられている。使い慣れたタンスや机、椅子などを持ち込み、花や家族の写真などを飾り、本人が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。壁には家族の手紙や励ましの言葉などが貼られており、温かさを感じる居室になっている。 | | |

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。